

着て触る「しこり発見」ツールで、命を救う行動をデザイン



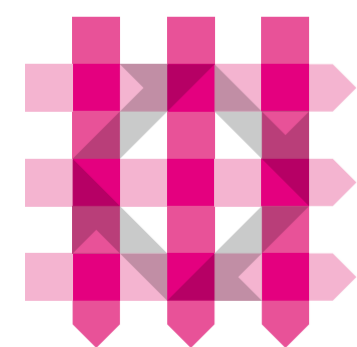
① SELF CHECK VEST

着て**ベスト**な
セルフチェック！



② SELF CHECK PAD

かけて**パツ**と
セルフチェック！



BREAST
CANCER
CHECK!

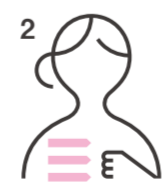
BACKGROUND

理解の先の「行動」をデザインすること

乳がんは自分で見つけられるがん。早期発見のおよそ60%は、セルフチェックで見つかっている。それにも関わらず、やり方を知っているのはたったの7%。この現実を受け、中京テレビは2018年から指3本のセルフチェックで「わかりやすく伝える」ための施策に取り組んできた。しかし認知・理解の先を目指す第2フェーズでは、ターゲットの「行動」に重点を置き、セルフチェックを習慣化させるためのアイデアが必要だと考えた。



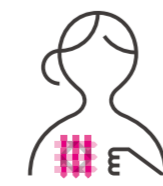
指の腹で乳房を
圧迫し、上から
下へとチェック



水平方向に脇の
下から、内側に
動かし、チェック



中心に向かって
全体を円を描き
ながらチェック



BREAST
CANCER
CHECK!

IDEA

着用できる「しこり発見」ツールで、
指先にリアルな記憶を

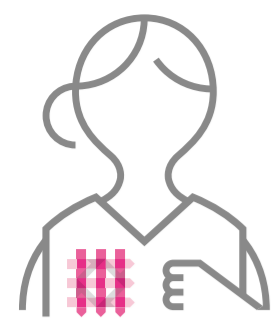
既存の「しこり発見」ツールは机上専用であり、自身の胸をチェックする感覚とはほど遠いものだった。そこでターゲットの指先にしこりの感触=チェックの感覚をリアルに記憶させるための着用ツールを開発。空気で膨らむ透明形状で抵抗感なく実践的な感覚を掴める①「SELF CHECK VEST」。よりポータビリティに優れ、左右入れ替えて両胸の感触を記憶できる肩かけの②「SELF CHECK PAD」。これらの貸し出しを通して、リアルな「行動」を促進した。

RESULT

広範な貸し出しで
命を救うデザインが拡散

着用型「しこり発見」ツールの貸し出しは好評を博し、ピンクリボンをはじめとする多くの企業・団体に活用された。女性はもちろんのこと、男性にも抵抗なく体験してもらえ、広く多くの人々の「行動」を誘発。イベント会場に限らず、小規模なコミュニティ単位でも時間・場所の制約なき展開が実現した。ツールは「日本乳癌学会学術総会」でも紹介され、各方面から注目されている。

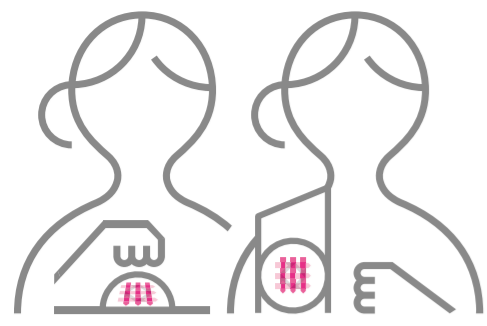




SELF CHECK VEST

あなたに**ベスト**な乳がんセルフチェックが身につく!





SELF CHECK PAD

この場で **パツ**と。置いて **パツ**と。かけて **パツ**と。

